

令和2年度博物館施設評価集計シート（年度末）

施設名 歴史と民俗の博物館

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

1. 数値目標による評価

(1) 全館共通項目

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	156,200	人	未達	第3期教育振興基本計画を踏まえた目標値	
				27,657	人			
2	利用状況	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	41,430	人	未達	基準値:41,423人 目標参考値:41,423人	
				13,967	人			
3	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	1,240	件	未達	基準値:1,075件 目標参考値:1,234件	
				274	件			
4	利用状況	経営努力	観覧料および事業等収入額	15,924,000	円	未達	* 当該年度予算計上額	
				7,903,394	円			

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

(2) 館別独自項目

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	特別展・企画展	観覧者	特別展・企画展の観覧者数	26,750	人	未達	基準値:26,741人 目標参考値:26,741人 「新収集品展」3,114人、「青天を衝け」1,910人	
				5,024	人			
2	学校利用	出前授業	出前授業の実施校数	25	校	達成	基準値:25校 目標参考値:25校	
				43	校			
3	学校利用	団体利用	学校団体の博物館利用校数	108	校	未達	基準値:99校 目標参考値:108校	
				25	校			
4	資料管理	資料点検	年間の点検資料数	10,000	点	達成	資料点検年次計画による	
				10,955	点			
5	利用状況	情報提供サービス	年間レファレンス対応件数	188	件	達成	昨年度実績による	
				380	件			
6	利用状況	情報提供サービス	年間HPアクセス件数	493,130	件	未達	基準値:423,166件 目標参考値:493,127件	
				412,021	件			
7	満足度	常置アンケート	アンケートでの常設展満足度	80	%	達成	H28年度博物館協議会における協議による 243/261=93.1%	
				93	%			
8	満足度	企画展・特別展アンケート	アンケートでの企画展・特別展満足度	80	%	達成	H28年度博物館協議会における協議による 新収集品展87%	
				87	%			

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<p>1 博物館活動のベースとなる資料の収集、調査研究、保存管理体制の推進</p> <p>2 2021年に延期された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたおもてなし環境の充実</p> <p>3 「埼玉ならではの価値」を発信する、魅力的な特別展・企画展の開催</p> <p>4 学校教育との連携</p> <p>5 他施設等とのネットワーク機能の充実</p> <p>6 戦略的広報の推進</p>
事業の実施状況と過程	<p>◎新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、令和2年2月29日から5月25日まで、及び12月24日から令和3年3月21日まで臨時休館</p> <p>◎ゆめ・体験ひろば7月21日再開(通常メニューは事前予約制により実施)</p> <p>1 博物館活動のベースとなる資料の収集、調査研究、保存管理体制の推進</p> <p>(1)文化遺産活用調査事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無形民俗文化財調査事業「巡り・廻りの民俗行事」(第Ⅱ期)の実施 ・歴史遺産調査事業「『新編武蔵風土記稿』総合調査」の実施 <p>(2)計画的な資料点検、保存状態の確認及び保存環境の整備推進</p> <p>2 2021年に延期された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたおもてなし環境の充実</p> <p>(1)「太平記絵巻」展示のための環境整備</p> <p>3 「埼玉ならではの価値」を発信する、魅力的な特別展・企画展の開催</p> <p>(1)特別展「武蔵国の旗本」中止</p> <p>(2)企画展「新収集品展」(10/10～11/23)開催</p> <p>(3)特別展「銘仙」中止</p> <p>(4)特別展「青天を衝け～渋沢栄一のまなざし～」(3/23～)開催</p> <p>4 学校教育との連携</p> <p>(1)学校団体受入れ及び出前授業を積極的に実施…コロナ禍により団体来館数減少したが出前授業は増加</p> <p>5 他施設等とのネットワーク機能の充実</p> <p>(1)MVO連絡協議会の9施設による連携事業開催(キーワードラリー、ウォーキングツアー)</p> <p>(2)埼玉県博物館連絡協議会等の運営</p> <p>6 戦略的広報の推進</p> <p>(1)館ホームページの充実(コロナ禍に伴う動画コンテンツ等の配信)</p> <p>(2)各種媒体により館事業の紹介を発信</p>
事業の成果	<p>1(1)「巡り・廻りの民俗行事」調査では、DVD『番匠免の大般若経祭り』の作成、「玉敷神社のお獅子様」のアンケート調査を行った。</p> <p>「新編武蔵風土記稿」総合調査では、寄居町昌国寺文書の調査、整理、仮目録の作成を行った。</p> <p>(2)計画的にIPMと資料確認作業を行い、安定した保存環境を維持できた。</p> <p>2(1)新たに展示ケース、展示台、タッチモニターを購入し、展示環境の整備を行った。また、『太平記絵巻』の図録及びブックレット『太平記絵巻を知る』を作成した。</p> <p>3(1)～(4)新型コロナウイルスの影響により開催できたのは、企画展「新収集品展」、特別展「青天を衝け～渋沢栄一のまなざし～」のみであり、観覧者数は計5,024人であった。</p> <p>4(1)学校団体来館は25校と昨年度の108校から激減したが、出前授業が43校とこれまでで最多となった。</p> <p>5(1)キーワードラリー(11/16～2/11)は1,558人、ウォーキングツアー(12/5)は6人の参加者があった。</p> <p>(2)埼玉県博物館連絡協議会の事務局として協議会の運営を行ったが、多くの会議や研修を书面開催や中止とせざるを得なかった。</p> <p>6(1)「おうちでミュージアム」のコーナーをHPに掲載し、展示や体験に関する映像を配信し、12,401回の再生回数があった。</p> <p>(2)特別展「青天を衝け」において、HPだけでなく、大宮・浦和駅のデジタルサイネージや、深谷・王子駅の駅貼り広告を実施した。積極的な広報の成果として、特別展期間を通してコロナ禍以前に相当する9,965人の観覧者数があった。</p>

基礎データ

職員数 (学芸員数)	34人 (21人)	総予算額 (人件費を除く)	125,313,000円	職員一人あたりの県民人口	21.6万人
収蔵資料総点数 (R3.3月末現在)	126,281点	事業経費 (上記の内数)	97,661,000円	利用者一人あたりのコスト (令和元年度)	952円
令和2年度 収集資料点数	13点	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	22,471,000円 (9,157,000円)	県民人口に対する利用者割合 (令和元年度)	1.56%

(注)令和2年4月1日現在の埼玉県推計人口は7,341,794人である

2. 全館共通項目チェックリスト

歴史と民俗の博物館

評価基準	
完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
着手状態乃至課題が残されている状態	B
未着手状態	C

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の収集	① 資料の収集方針、収集計画を策定しているか	A	資料収集方針
	② 収集方針、収集計画に基づき資料収集を行っているか	A	資料収集方針
	③ 特色あるコレクションの形成に努めているか	A	埼玉県関係資料
	④ 有形資料に限らず、映像資料や情報資料等も積極的に収集しているか	A	巡り・廻りの民俗行事調査
	⑤ 収集した資料についての調査を実施し、調書を作成しているか	A	作成済
	⑥ 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか	B	資料評価会議延期
	⑦ 規定の資料台帳を整備し、資料を登録しているか	A	収蔵資料管理台帳による
	⑧ 規定の収集資料ラベルを設け、資料に添付しているか	A	同上
	⑨ 資料の基本データ記録を作成し、管理しているか	A	同上
	⑩ 収集時に資料の殺虫処理・クリーニングを適切に行っているか	A	同上
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項が整備されているか	A	収蔵資料管理要項
	② 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項を職員に周知し、それに基づいた資料の保存管理を実施しているか	A	IPM委員会の開催(年2回)
	③ IPMの考えに基づいた資料の保存管理について、最新情報の収集や研修を行っているか	A	IPM研修の実施(月2回)
	④ 資料特性に即した適切な収蔵施設を整備しているか	A	IPM及び空調管理等
	⑤ 収集資料の清掃・修理等を適切に行っているか	A	月2回実施
	⑥ 有害生物・室内ガス・光種等のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	A	月1回実施
	⑦ 資料の殺虫・殺菌処理を適切に行っているか	A	燻蒸・忌避剤散布の実施
	⑧ 温湿度の日常的な管理・記録化等を行っているか	A	通年測定及び記録化の実施
	⑨ 光量の管理を適切に行っているか	A	適正照明具の使用、資料別光度測定
	⑩ 資料の所在確認作業を定期的に行っているか	A	月2回資料点検を実施
	⑪ 資料の劣化状況を定期的に確認しているか	A	月2回のIPM作業・資料点検時等に確認
	⑫ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的かつ必要に応じて行っているか	A	刀剣手入れ等
	⑬ 借用資料・寄託資料の更新手続きは適正に行われているか	A	承諾書等の定期的更新を実施

項目	チェック内容		評価(A～C)	備考
資料の保存管理	⑭	資料のデータベースを整備するとともに、情報を適宜更新しているか	A	収蔵資料データベース
	⑮	収蔵庫の入退室管理簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	収蔵資料管理要項による
	⑯	収蔵資料の出納簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑰	収蔵庫の鍵を適正に管理しているか	A	同上
資料の活用	①	収蔵資料の活用に関して規程・手続きを整備しているか	A	資料特別利用、資料館外貸出規定等
	②	収蔵資料の活用に関する手続き等を公開しているか	A	申請書等のHP公開
	③	収蔵資料を展示に活用しているか	A	活用点数1,087点
	④	収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	A	貸出点数27点
	⑤	収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等・原板利用等)に適切に対応しているか	A	利用点数304点
	⑥	資料の基礎情報・解説付目録(紙・電子)を適宜作成・更新・公開しているか	A	今年度システム更新
	⑦	収蔵資料をホームページ等で紹介・更新しているか	A	適宜更新
常設展示	①	資料の展示環境を適切に管理しているか	A	空調・露光・設置・観覧者との接触等
	②	展示関連のサイン・パネル等がわかりやすいか	A	視認性を考慮したサイン・パネルの設置
	③	展示室内に監視員や監視カメラ等を配置しているか	A	監視員・警備員の配置
	④	展示情報を適宜修正・更新しているか	A	適宜実施
	⑤	展示設備等を適宜点検しているか	A	開館・閉館時の巡回点検
	⑥	展示ガイド等を作成しているか	B	解説リーフレットで代用
	⑦	解説リーフレット等を作成しているか	A	展示室ごとに作成、配布
	⑧	展示解説等を適宜実施しているか	B	ボランティアガイドの制限
	⑨	観覧者アンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	来館者アンケート
	⑩	アンケート結果に基づいた展示改善を実施しているか	A	アンケートの集計・分析により適宜対応
	⑪	県民に対し展示情報を適宜発信しているか	A	HP、月別イベントチラシ等
学習支援事業	①	事業情報を利用者に広く発信しているか	A	HP、SNS、月別イベントチラシ等
	②	多様な媒体による参加申し込み方法を用意しているか	A	電話、電子申請、葉書
	③	多様な参加者を想定したプログラムを用意しているか	B	特別体験メニューの制限
	④	参加者に対しサポート体制を整備しているか	A	体験ボランティアの養成・配置、外部講師による講座の実施

項目	チェック内容	評価(A～C)	備考
学習支援事業	⑤ 事業実施にあたり参加者の安全に配慮しているか	A	用具の管理及び注意喚起
	⑥ 参加者を対象としたアンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	参加者アンケートの実施
	⑦ アンケート結果に基づいてプログラムの開発・改善を行っているか	A	既存プログラムの改良改善、新規開発の調査等を実施
	⑧ 来館者用の図書・情報コーナーを設けているか	A	学び文庫
	⑨ 学芸員実習やインターンシップの学生を受け入れているか	A	学芸員実習、見学実習
県民との連携・協働	① ボランティア制度を導入しているか	A	展示解説ボランティア・体験ボランティア
	② ボランティアの活動に関する規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア設置要綱、活動細則
	③ ボランティアの募集・認定の規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア設置要綱、活動細則
	④ ボランティアの研修システムが確立され、適切に実施されているか	A	ボランティア研修会、定例会の開催
	⑤ ボランティアの活動成果が公開されているか	A	館HPで公開
	⑥ 友の会、NPO等が館事業に参加する機会を設けているか	A	友の会共催事業(プレミアム講座等)
	⑦ 地域社会で実施されるイベント等に館として積極的に関わっているか	C	大盆祭り、北区民まつり等 今年度中止
調査研究活動	① 調査研究テーマを定めているか	A	要覧等に明示
	② 調査研究のための予算措置等に努力しているか	A	文化遺産調査活用事業の実施
	③ 調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加し、館内に情報提供しているか	C	コロナ禍により研修の機会なし
	④ 収集している資料に関連する専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	無形民俗文化財・歴史遺産の調査、紀要執筆他
	⑤ 資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	A	研修への参加等
	⑥ 地域貢献の視点から、館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	A	無形民俗文化財・歴史遺産の調査、紀要執筆他
	⑦ 学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	紀要執筆他
	⑧ 他館や他機関との間で共同研究等を行っているか	A	国立歴史民俗博物館と共催で旗本に関する研究発表
	⑨ 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	A	歴史民俗講座、紀要執筆
	⑩ 調査研究の成果を、社会貢献の視点から国、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか	A	県政出前講座他
施設・アメニティー	① 施設の維持・改善についての計画を策定しているか	A	優先順位と予算をもとに検討
	② 展示室、収蔵庫などで耐震対策を行っているか	A	テグス留め、ネット掛け他
	③ 危機管理マニュアルを整備しているか	A	令和2年7月改訂
	④ 防災・救急訓練等を定期的実施しているか	A	消防訓練、地震訓練及び救命講習を実施
	⑤ 休憩コーナー、授乳コーナー、喫茶コーナー等を設置または状況により対応しているか	A	無料スペースに設置
	⑥ レンタル用の車椅子、ベビーカーは整備されているか	A	車椅子8 ベビーカー2

項目	チェック内容	評価(A～C)	備考	
施設・アメニティー	⑦	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	A	施設設備点検の実施
	⑧	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	A	障害者用2台分
	⑨	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	A	エレベーター、階段昇降機の配備
	⑩	利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	A	ピクトサインの採用、サインの改修
	⑪	館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	A	常設展解説パネルの多言語化を実施
	⑫	利用実態に応じて開館時間を設定しているか	B	夏季の延長設定(今年度は実施せず)
	⑬	便益施設として利用者数に見合った施設・設備を確保しているか、または状況に応じて対応しているか	A	団体のバス利用は臨時駐車場を確保
施設の活用	①	施設利用のための要項、マニュアルを策定しているか	A	管理規則、様式第3号
	②	施設利用のための情報を公開しているか	A	館HPに利用案内を公開
	③	施設を一般の利用に提供しているか	A	講堂・講座室
	④	施設を学校団体等の利用に提供しているか	A	講堂・無料休憩コーナー
	⑤	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	B	MVO等、コロナ禍により利用者減少
	⑥	地域や他施設・機関・学校等との連携を図っているか	A	スタンプラリーやウォーキングツアー等の実施

3. 館別独自項目チェックリスト

歴史と民俗の博物館

評価基準

完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
着手状態乃至課題が残されている状態	B
未着手状態	C

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
特別展・企画展事業の実施	① 中・長期的な展示計画を策定し、特別展・企画展を実施しているか	A	中期計画を策定
	② 県民ニーズや時代の要請を踏まえて、時宜を得た特別展・企画展を開催しているか	B	特別展「武蔵国の旗本」「銘仙」中止
	③ 調査研究成果の蓄積や、最新の学術情報を反映した特別展を開催しているか	B	特別展「武蔵国の旗本」「銘仙」中止
	④ 全国の博物館や文化財所有者との連携による特別展を開催し、県民に日本の優れた文化遺産を積極的に公開しているか	B	特別展「武蔵国の旗本」「銘仙」中止
	⑤ 模範的、先進的な展示手法を用いた特別展を開催しているか	B	特別展「武蔵国の旗本」「銘仙」中止
	⑥ 展示観覧者アンケートにより満足度・ニーズを測定し、以後の展示事業に活かしているか	B	特別展「武蔵国の旗本」「銘仙」中止
	⑦ 展示観覧者の目標数を設定し、その達成に努力しているか	A	年間目標値を設定
	⑧ 展示内容に則した弾力的な広報活動を実践しているか	A	展覧会ごとに広報先を選定
中核的施設としての活動	① 勧告・承認施設として資料を公開しているか	A	国宝慈光寺経、重文熊野神社境内古墳出土品
	② 公開承認施設として資料を公開しているか	B	特別展で出品予定だったが休館。Webで公開
	③ 県内の博物館職員を対象とした研修会・見学会等を実施しているか	B	埼博連による研修会・見学会の実施(今年度は1回)
	④ 県内の博物館施設を対象とした協力・支援事業を実施しているか	A	埼博連会長館及び事務局
	⑤ 県外博物館施設との相互協力事業を実施しているか	A	関博協、歴民協等
	⑥ 県立博物館施設相互の連絡調整を図っているか	A	経営総合調整会議
ゆめ・体験ひろばの運営	① 地域の文化資源を活用した博物館ならではのプログラムを提供しているか	A	ものづくり工房体験メニュー、特別体験メニュー
	② 埼玉の歴史や文化の理解につながるプログラムを提供しているか	A	ものづくり工房体験メニュー、特別体験メニュー
	③ いつでも、手軽に参加できるプログラムを提供しているか	B	ものづくり工房体験メニュー予約制
	④ 世代間交流ができるプログラムを提供しているか	B	お雛子体験教室、ペーゴマ教室等中止
	⑤ 常設展示室と連携したプログラムを提供しているか	A	展示室ワークシートの実施
	⑥ 多様なマンパワーが参画・協働できるプログラムを提供しているか	C	昭和の原っぱイベント中止
	⑦ 地域と連携したプログラムを提供しているか	B	射的あそび等の中止、組紐体験等の実施
	⑧ 学芸員の専門性をプログラムに反映しているか	A	ものづくり工房体験メニュー
伝統文化の記録・公開・継承	① 県内の民俗文化財に関する資料の記録化に取り組んでいるか	A	巡り・廻りの民俗行事調査
	② 展示や公演をとおして県内の民俗文化財を県民に公開しているか	A	有形民俗文化財長板中型・青織の展示
	③ 県内の民俗文化財の継承につながる講習会等を実施しているか	C	民俗芸能講習会今年度中止
	④ 伝統文化継承者、伝統技術保持者の支援・育成に努めているか	A	文化振興基金助成審査委員
新対策 感染イコル	① 館内利用者を介したクラスターの発生はなかったか	A	対応方法は次ページ参照
	② 利用者から館の対応に関するクレームはなかったか	A	

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のために実施した対策(令和2年度)

利用者への説明	館内外の掲示、ホームページでの周知
入館制限	入場者数の上限設定、滞在時間の設定、館出入り口の制限、発熱や風邪症状のある方の入館制限
入館者管理	検温、手指消毒、入館カード記入依頼(氏名・連絡先・発熱等体調不良の有無)
施設管理	職員及び委託業者による消毒、換気の徹底、受付カウンターにアクリル板の設置
職員の衛生対策	マスク着用や手指消毒・健康管理の徹底、発熱や風邪症状のある職員の出勤自粛、受付職員のフェイスシールドの着用
館内行動の制限	会話制限の依頼、十分な間隔をあけての観覧やマスク着用の依頼、椅子・コインロッカー・幼児コーナー等の利用制限、ハンズオン展示等の制限、展示導線の設定
講堂・講座室の制限	利用人数制限
事業の制限	体験メニューの事前予約制の導入、ボランティア活動の制限、接触を伴う体験事業の中止
県全体の対策実施	臨時休館の実施、主催事業の中止・延期・規模縮小、感染防止アプリのダウンロードの依頼

令和2年度 博物館施設 総合評価 (年度末)

施設名 歴史と民俗の博物館

		達成	未達
全館共通	数値目標による評価	0	4
各館独自	数値目標による評価	5	3

		完了A	課題有B	未着手C
全館共通	チェックリストによる評価	82	6	2
各館独自	チェックリストによる評価	16	10	2

自己評価総括

評 価	<p>・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年2月29日から5月25日まで、及び12月24日から令和3年3月21日まで臨時休館となった。開館日数は、昨年度は284日であったが、今年度は186日と68%になっている。</p> <p>・昨年度と開館日1日当たりの比では、入館者数34.3%であるが、観覧者数は52.6%。大きく人数を減らしたのは学校団体人数23.7%と、無料スペース利用者数(講座、ゆめ体験ひろば利用者含む)22.6%であった。また、観覧者総数から学校団体を除いた一般観覧者は58.7%で、個人観覧小中学生 68.8%、高大生 56.7%となっている。(いずれも昨年度との開館日1日当たりの比)</p> <p>・特別展「武蔵国の旗本」「銘仙」の中止、ゆめ・体験ひろばの予約制、イベントや裏方探検隊の中止、学校団体の来館自粛、検温等入館受付の実施などが入館者減の大きな要因となった。</p> <p>・コロナ禍の中ではあったが、企画展「新収集品展2018・2019」が開催できたことから、当館の資料収集や管理業務について県民に広く周知することが出来た。</p> <p>・入館者の満足度は目標を大きく超えており、高評価を得ている。</p> <p>・基礎的な調査事業や資料保存対策は着実に実施できた。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、当館に足を運べないお客様のために、HPにうちミュージアムのページを開設し、当館の事業を楽しめるコンテンツを充実させた。</p> <p>・出前授業は昨年度25校であったものが今年度は43校となり、校外学習ができない状況の中で利用が増加した。これまで当館を利用したことがない学校にも当館を知ってもらうきっかけとなった。</p> <p>・予定していたすべての学習支援事業について感染症対策を検討し、実施の可否または中止を決定した。判断は適切であったと考えられる。</p> <p>・臨時休館により、観覧料および体験プログラム等の事業収入は目標値を大きく下回った。</p> <p>・全館体制で、入館者への感染症対策に万全を尽くすことができた。</p>
課 題	<p>①今後、新型コロナウイルスの感染が収束する傾向になったとしても、感染症対策を継続していく必要がある。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、例年に比べて新聞社・出版社等のマスコミ向けの広報が不十分であった。</p> <p>③今年度で大きく減少した入館者を呼び戻すための方法を検討していく。</p> <p>④学校の校外活動の多くがコロナ禍で中止となり、本年度の学校受入れ実績は昨年度の4分の1ほどになった。安全対策をした上での団体受入れではあったが、今後も続けて安全かつ有意義な体験を提供する運営方法を模索する必要がある。</p> <p>⑤現在、ボランティアの活動が多く制限されていることから、各ボランティアのモチベーションを維持させるのが難しい。</p> <p>⑥収入の減は事業の執行に大きく影響するため、観覧料等の自主財源の増は、事業内容の充実及び安定した経営基盤に資することとなる。</p>

対応の方向	<p>(番号は課題に対応)</p> <p>①感染状況を適宜みながら、万全な感染対策を継続していく。</p> <p>②③展示やイベントなどの内容に合わせ、積極的にマスコミに情報発信し、集客に結びつけていく。また、今年度中止となった学校などへ案内を行い、団体利用を促していく。</p> <p>④当館の安全対策や分散来館などの受入れ方法についての情報提供、学校との協力を進める。体験プログラムについても安全を担保しつつ有意義な体験となるよう見直しをすすめる。</p> <p>⑤ボランティア研修等を通じて、スキルを向上させることにより、モチベーションを維持させていく。</p> <p>⑥国や各種団体の助成金等外部資金の取得に努めるとともに、観覧者への特典グッズや割引特典など、観覧者数を増やす取組を行う。</p>
-------	--

評価結果に対するコメント

各館協議会・委員会の意見	<p>【1月末の評価シートに対する博物館協議会委員の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入館者の満足度を算出するには、アンケートの回収率が低いのではないか。 ・今後、コロナの影響下で目標をどのように立てていくのかが課題。またコロナの感染状況によって目標を見直していく必要がある。 <p>【博物館評価小委員会委員の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値目標の点では、観覧者、学校の団体利用等、新型コロナウイルス感染症拡大の影響は大きいものがあつた中、学校利用の出前授業の実施数が例年を大きく上回っている(172%増)ことは、職員の実力の成果と評価できる。 ・「埼玉ならではの価値」の発信という点では、特別展「青天を衝け～渋沢栄一の名なきし～」は興味深い展示の数々であつたと評価できる。渋沢栄一関係の展示は、引き続き常設展示にもコーナーを設置するなど、息の長い企画を希望したい。 ・ホームページによる様々な発信に工夫が積み重ねられ、コロナ禍でも県民・見学希望者への来館希望(意欲)につながっているとと思われる。引き続きホームページの充実に期待したい。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に未達事項が多いが、ほとんどがコロナ禍による特別展や催事の開催中止に関係する不可抗力で、むしろその中で着実に達成されている事項が少なからずあることは積極的に評価したい。特に顕著なのは、資料点検が目標値を1割程度上回っていること、過去最多の出前授業が実施されたことである。新収蔵品展も、日常的な活動の成果を伝える意味でも、意味のある企画であつたと思う。開館が叶わずとも、できることを確実に進めてゆくことは、昨今の情勢下、重要なことである。 ・同様に「おうちミュージアム」などの、新たな試みも高く評価される。ただ、コロナ下で新たに開始されたり、開催回数が増えた事業が、コロナ下だけの時限的なものなのか、今後も同じペースで継続されてゆくのかという方向性は検討しておく必要がある。コロナ後にそれらが、従来行われていた事業に加えて行われることは、業務の純増を意味する。別途、入館者を呼び戻す事業も検討されるという。限られた予算・人材・時間の中で無制限に業務が増大し、質が低下することを避けるために、コロナ後を見通して、事業の整理・改変を議論し、場合によっては評価項目を見直すことも必要であろう。 ・レファレンス対応件数が目標値の倍以上となつた点も注目される。ただ、レファレンス内容がどのようなものかは、知りたいところである。単なるコロナ禍による運営に対する問い合わせなのか、博物館活動や館蔵品への関心に基づく問い合わせなのか、レファレンスの内容も概略でよいので示してもらえると、より適切な評価をすることができると考える。内容によっては、本年度の数値を実績として来年度の目標値とすることは困難かもしれない。とはいえ、いずれにせよレファレンス対応件数の倍加は、県民の博物館への強い関心を表すものであることには変わりはなく、今後も関心の喚起に務めていただきたい。 ・常設・特別展アンケートとも、満足度が9割前後となっていることも素直に評価したい。しかし、やはり入館者に対してアンケートの回収率が1割に満たない点は、改善の必要があると考える。 ・最後に、国立歴史民俗博物館との共同研究は、本館学芸員が優秀な研究者であることと、研究機関としての博物館の認知度を高める効果を持つため、積極的に推進していただきたい活動であると考えられる。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度に比べ総合評価内の「課題有B」と「未着手C」が多くなつたのはコロナ禍のもと開館日数の減少、イベントの中止および学校等からの自粛の結果であり評価が落ちたということではなく不可抗力的にやむを得ない年度だつたと思える。 ・開催日数が少なくなり、さらに1日あたりの人数が低下してしまつたのは感染症対策を十分に施しての開催だつたと考え、安心して入場してもらふ態勢を整えていたためと想像した。 ・コロナ禍において利用者が少なくなつても出前授業が7割(25→43校)増えたのは従来だけの学校以外にも新たな需要があつたということで今後の来訪者への間口を広げたことになり、このような環境下でも出来ることはさらに拡大していただきたい。
--------------	---